

2019年11月6日

ご参考資料

MLP
Monthly

MLP マンスリー

2019年10月の

MLPの動きをザックリご紹介

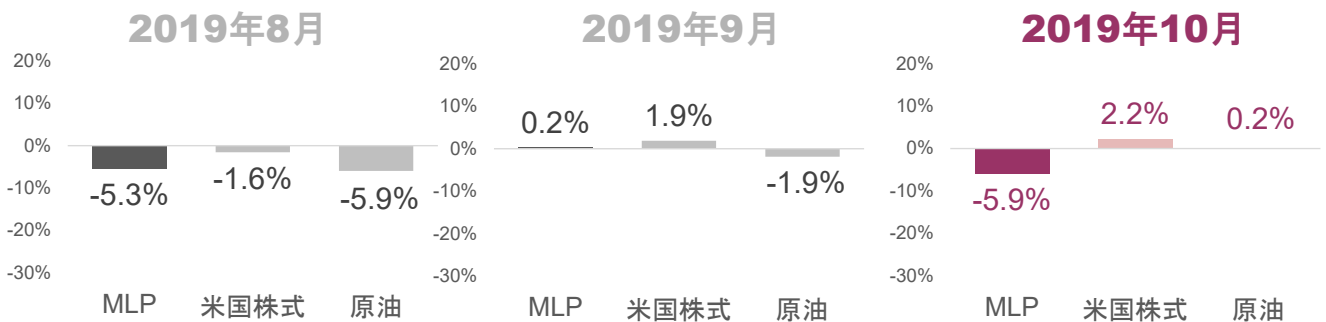
nikko am
fund academy

■ 当月のS&P MLP 指数の動き

10月のS&P MLP 指数(米ドルベース/トータルリターン)は、前月末比-5.9%と2ヵ月ぶりの下落となりました。

月初は、米景気減速懸念や米中協議難航への警戒感などから、米国株式市場が下落基調となる中、MLPも下落しました。その後、米中協議が部分合意したことや米企業の好決算などを受けて、米国株式市場は上昇に転じたものの、米金利が上昇する中、MLPは上値の重いまま月末を迎えました。

■ 過去3カ月の主要指標の月次騰落率(米ドルベース、トータルリターン)



■ 主要指標の動き

MLP: S&P MLP 指数、米国株式: S&P 500 種指数、原油: WTI

休場の場合は、直前の営業日のデータを使用	指数値	指数値	指数値	指数値	騰落率		
	2019/10/31	2019/9/30	2019/7/31	2018/12/31	前月末比	3ヵ月前月末比	前年末比
S&P MLP 指数(米ドルベース)							
トータルリターン	4,315.68	4,585.12	4,832.50	4,047.51	-5.9%	-10.7%	6.6%
プライスリターン	1,261.36	1,353.62	1,444.65	1,268.20	-6.8%	-12.7%	-0.5%
S&P 500種 指数(米ドルベース)							
トータルリターン	6,138.73	6,008.59	5,993.17	4,984.22	2.2%	2.4%	23.2%
プライスリターン	3,037.56	2,976.74	2,980.38	2,506.85	2.0%	1.9%	21.2%
S&P 500種 エネルギー株指数(米ドルベース)							
トータルリターン	784.20	802.55	841.26	757.14	-2.3%	-6.8%	3.6%
プライスリターン	426.66	437.13	462.47	424.07	-2.4%	-7.7%	0.6%
S&P 米国 REIT 指数(米ドルベース)							
トータルリターン	1,514.74	1,493.26	1,408.21	1,190.35	1.4%	7.6%	27.3%
プライスリターン	356.01	351.46	334.13	288.67	1.3%	6.5%	23.3%
米国ハイイールド債 (ICE BofA Merrill Lynch 米国ハイイールド・インデックス(米ドルベース))							
トータルリターン	1,378.72	1,375.53	1,365.85	1,233.61	0.2%	0.9%	11.8%
プライスリターン	76.11	76.32	76.58	71.75	-0.3%	-0.6%	6.1%
米国10年国債利回り							
	1.69%	1.66%	2.01%	2.68%	0.03	-0.32	-0.99
原油 (WTI) 米ドル/1バレル当たり							
	54.18	54.07	58.58	45.41	0.2%	-7.5%	19.3%
天然ガス先物 米ドル/百万btu当たり							
	2.63	2.33	2.23	2.94	13.0%	17.9%	-10.4%
米ドル(対円)							
	108.03	108.08	108.78	109.69	-0.0%	-0.7%	-1.5%

※ 「米国10年国債利回り」の騰落率は、変化率(%)ではなく、利回りの変化幅を示しています。

※ 各指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが世界のマーケット状況についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

■ 当月の出来事いろいろ

- 10月7日の週より2019年7-9月期決算の分配金公表が始まり、大手MLPでは、「エンタープライズ・プロダクツ・パートナーズ」や「マゼラン・ミッドストリーム・パートナーズ」「MPLX」などで前期比増配が確認された。
- 10月11日のワシントンでの米中閣僚級協議において部分合意に至ったことを受け、市場では安心感が広がる展開となった。7-9月期の米企業決算の内容が好調だったことなどもあり、米国株式市場は上昇基調に。S&P500種指数は3ヵ月ぶりに史上最高値を更新した。
- 原油価格については、米原油在庫の増加などをを受けて、月初、下落したものの、その後中旬までは、レンジ内の推移となった。月末にかけては、OPEC(石油輸出国機構)が12月の総会で減産を検討すると報じられたことなどを背景に下旬にかけて上昇基調となった。
- 米中対立の緩和ムードが広がったことに加え、英国のEU(欧州連合)離脱について、10月末の離脱期限が延期される見通しが高まったことなどを背景に、米国債利回りは中旬以降、上昇基調となった。
- 月初は、米国株式や原油の下落などとともに、MLPも下落基調となった。その後、米国株式については、企業決算の本格化とともに、好決算の発表が相次いだことなどをを受けて上昇基調となったものの、MLPについては、決算発表を控えた様子見姿勢が強く、弱含む展開に。さらに、下旬にかけては、米国株式、原油、ともに上昇基調となったものの、米金利が上昇基調となる中、MLPの上値は重く、S&P MLP指数は月次ペースでマイナスリターンとなった。

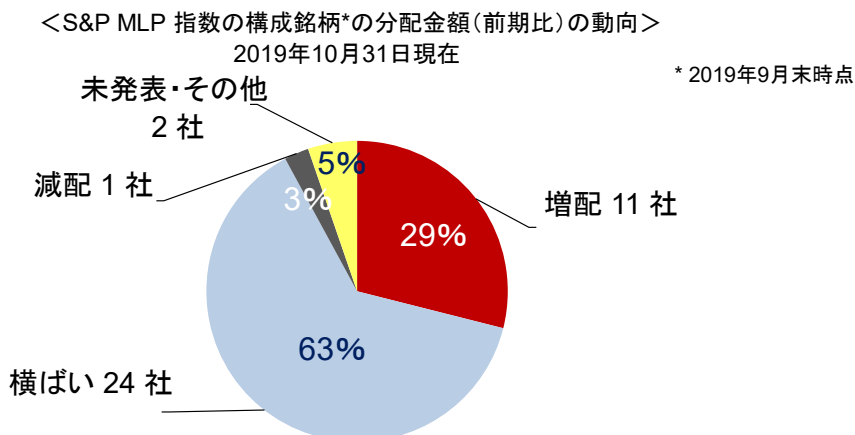
※上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

■ 今後の注目点

- 目先は、MLPの決算発表内容が注目される。
- 中長期では、世界景気の減速懸念が原油の需要見通しの重石となっていることから、原油価格の動向を捉える意味でも米中の協議進展や景気の動向が注目される。

■ MLPの分配金動向

決算シーズンの際、MLP各社は決算発表に先立ち、その期の分配金を発表するのが一般的です。10月から公表が始まっているMLPの2019年7-9月期の分配金動向は、2019年10月31日現在で、指数構成銘柄(38銘柄、2019年9月末時点)のうち、**36社の発表が終了しており、前期比での増配は11社、横ばいが24社、減配が1社**となっています。



(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

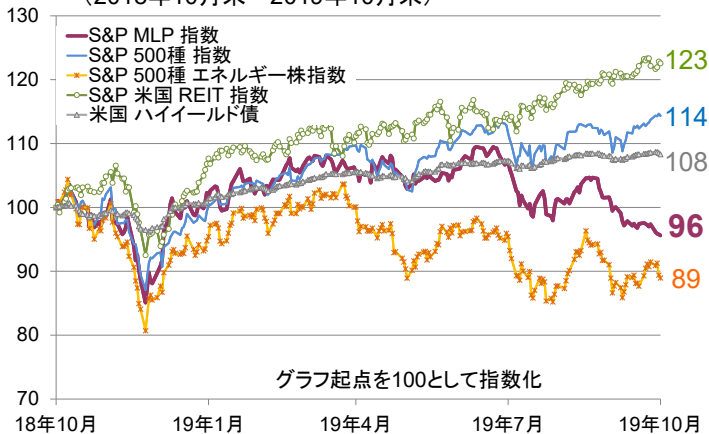
※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが世界のマーケット状況についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

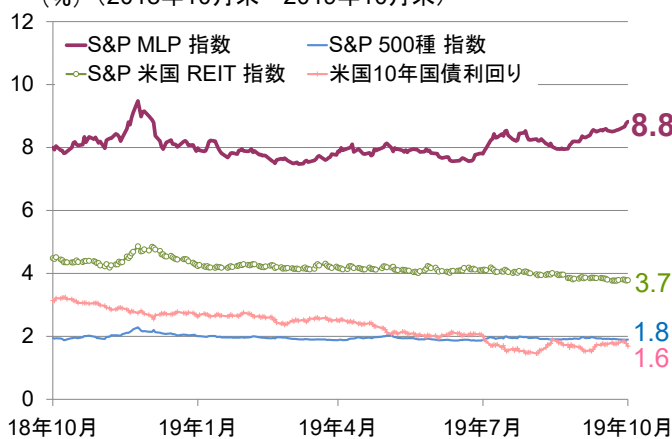
■過去1年の指数の推移 (米ドルベース/トータルリターン)

(2018年10月末～2019年10月末)



■各資産の利回り

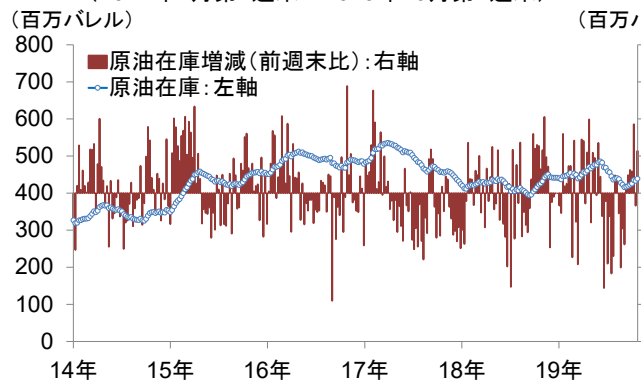
(%) (2018年10月末～2019年10月末)



※ 各資産のリスク特性はそれぞれ異なるため、利回りだけで比較できるものではありません。
 ※ 各指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

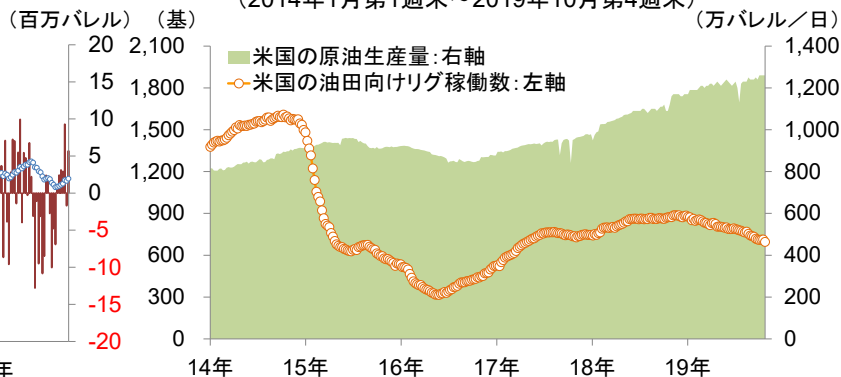
■米国の原油在庫

(2014年1月第1週末～2019年10月第4週末)



■米国の原油生産量と油田向けリグ稼働数

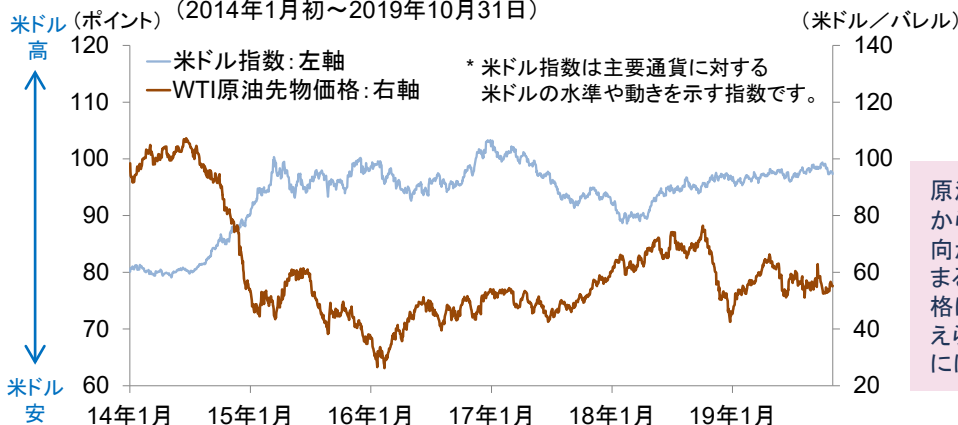
(2014年1月第1週末～2019年10月第4週末)



原油価格は、原油需給の影響を大きく受けます。一般的に、原油在庫が増えれば(減れば)、需給悪化懸念(改善期待)から、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。また、油田向けのリグ稼働数が増え(減り)、原油生産量が増える(減る)と、需給悪化懸念(改善期待)などから、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。

■原油価格と米ドル指数*

(2014年1月初～2019年10月31日)



原油は、米ドル建てで取引されることから、米ドル相場の影響を受ける傾向がみられます。米ドル高基調が強まる場合、割高感などにより、原油価格に押し下げ圧力が働く可能性が考えられることから、米ドル相場の動向には注視が必要です。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。